

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、地域の文化や伝統を尊重し、「生きる力」の理念を重視して、生涯を通して知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で人間性豊かな児童の育成を目指す。学んだことを必要なときに使える児童の育成を図る。 【○ゆたかな子 ○かんがえる子 ○つよい子】

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○子供も教師も明るく生き生きと輝いている学校 ○子供・教師・保護者・地域の願いや想いを大切にする学校 ○保護者・地域から「おらが学校」として信頼され共に子供を育成する学校
○児童・生徒像	○新しいことに挑戦し、失敗からも学び、やりきることのできる子供 ○明るくいいきと自己表現する子供 ○思いやりの心を持ち、目を輝かせて学び、遊び、働く子供 ○人や自然と積極的に関わり、共に生きる子供
○教師像	○子供と共に汗し、喜びや悲しみを分かち合う教師 ○子供のよさや失敗を認め、励まし、子供の学びにつなげることのできる教師 ○温かな学習集団を創り日々の授業の充実を目指して、挑戦する教師 ○学校運営やP T A、地域行事に進んで取り組む教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【成果】

- ・4月実施の区学力調査では、通過率、国語 86.5% 算数 85.7%で昨年度よりおよそ3ポイント上回った。板書の工夫やノート指導とともに適所にタブレット等ICT機器を使った授業の工夫や改善の成果と考えられる。
- ・説明する力が付いている。低学年で学習した順序を表す言葉や理由を表す言葉を使って説明できるようになってきている。
- ・問題解決型のスタンダードによる授業展開により、どの児童も事前に学習の仕方がわかり、学習内容に注目できるようになってきている。
- ・12月中に中一合宿問題を4年生以上で実施した。4年生までの計算問題は8割以上の児童ができるようになった。

【課題】

- ・学校全体での朝の生活習慣、学習に向かうルーティーンの活用・定着を新学年のスタート時からできるようにすること
- ・国語を理解し活用すること。算数等では論理的思考ができるように、図や式等活用できること
- ・各教科で学んだことを他の分野でも活用できること 主体的に学ぶこと
- ・「教師と児童との関わりを通して」「児童同士の関わりを通して」授業の中で育み、ICT 機器の活用をも含め、「成長できるというマインド」をさらに育てていくこと

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	◎	○	○
2	個の尊重とあたたかな人間関係の育成	○	◎	○	○	○
3	体力の向上と健康・安全	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－１		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
足立区学力調査の目標とする通過率を向上させる。		4月実施：国語・算数 82%以上 2月実施（確認）：国語 75%以上 算数 80%以上		4月実施国語 82.1% 算数 78.5%		・2教科を合わせると 80%超は定着してきた。さらに、活用力を伸ばしていくことが課題		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	主体的・対話的な学習のできる集団づくり	全学年 道徳科 特別活動	通年	・Hyper-QU（Web）の活用 学びの中心となる学級のあたたかな学習集団づくり ・学年で分析・工夫改善	年2回の Hyper-QU の実施 満足群の増加	満足群半数以上	・親和的な学級が 6割。満足源に属する児童の増加	・既習を活かし、できるようになったことを褒めて「伸ばす」徹底の成果	○
2 継続	ゴールを意識した授業改善による学力向上	全学年 国語科・算数科	通年	・足立スタンダードによる問題解決型授業の推進（用語の活用・振り返りの重視） ・プログラミング的思考の推進・読解力の向上	区学力調査問題 単元テスト ポートフォリオ	目標値達成 国語 85%以上 算数 85%以上	目標値達成 国語 82.1% 算数 78.5%に留まり、目標は達成できなかった。	各学年の課題を絞り、読解力の向上、補充学習に取り組んでいる。	△
3 継続	習熟度別指導授業・補充	全学年 算数科	授業時間 放課後	1年：週4時間 2年以上週5時間の習熟度別指導 週2回以上放課後補充教室	単元テストおよびベーシックドリル	80%以上の児童が単元テストで 80点以上	低学年は 80 点以上が 80%を超えた。全校では 63%です。	高学年までの摘み重ね、文を読み解き式や図に表す、思考することが課題である。	△
4 継続	ICT 機器・タブレット等の活用	全学年 全教科	通年	・AIドリル、デジタル教科書等、適所で ICT 機器の活用 ・計算の習熟・漢字の読みや意味調べ・調べ学習	週案 アクセス数等	タブレット・AI ドリル等 ICT 機器の活用数 2 回/日以上	・全学年でタブレットの活用、AI ドリルの課長ができた。	・調べ学習、考えの交流等 ICT 機器の活用が推進できた。	○
6 新規	タブレットの文字入力	高学年 国語科・総合	通年	タイピングソフトの活用 ローマ字入力	文字入力数	3 分間で 60 文字以上達成	90%達成 入力平均 104 文字	速い入力速度である。文具として活用できている。	◎

5 継続	読みの基礎 の定着	1 学年 国語科	通年	MIM の活用 特殊音節の読みに焦点	MIM アセスメント	3rd ステージ 0	MIM の 3rd : 3% (2 月)	言葉のまとまりをつ かませるなど継続的 に取り組んでいる。	△
7 継続	朝学習 (パワーアップ タイム)	全学年 国語 算数	週 3 回 10 分間	3 分間視写 計算 読書等	視写ファイル 等	視写速度等の向 上・定着	高学年で3分間で170 文字程度	速い速度に安定して きている。	○

重点的な取組事項－2		個の尊重とあたたかな人間関係の育成							
-------------------	--	-------------------	--	--	--	--	--	--	--

A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自分の心との対話の育成 道徳教育の充実 感謝の気持ちの醸成		児童アンケート調査 (7 月 1 2 月の計 2 回実施) ・「挨拶」「正しい言葉遣い」「良好な 友達関係」4 段階の B 以上 90%以上	「挨拶」「正しい言葉遣い」「良好 な友達関係」の項目で肯定的な回 答が 95%超となり、あたたかな人 間関係が育成できてきている。	肯定的な回答でない児 童への取組が課題	○

B 目標実現に向けた取組み					
---------------	--	--	--	--	--

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
道徳科の授業の充実	・道徳教育の要として道 徳の授業の改善・充実	・ポートフォリオの活用（全 学年）I C T 機器の活用 ・「思いやり」「生命尊重」の 項目の重点的な扱い	道徳の授業を確実に実施、授業後 の振り返りをファイリングし、心 のブラッシュアップ、心の教育を 推進した。	道徳の授業での学びを 生かし、アットホーム で、落ち着いた、あたた かな校風になってき ている。	○
「言葉は心」 挨拶・あたたかな言 葉遣いと返事の励行	・児童アンケート調査 「挨拶」「正しい言葉遣 い」B 以上 90%以上	・生活指導目標・言葉の月目 標について具体的指導の実施 ・あたたかな言葉遣い、文で 話す指導（～です。～ます。 を基本）	・「正しい言葉遣い」は 95%超であ る。授業、校内での「～です」「～ ます」等の丁寧な言葉遣いは向上 してきている。	昨年度に引き続き、子 持ちのコントロール、 校外に出たときの言葉 遣い画家大である。	○
自尊感情・規範意識 思いやりの心の育成	・児童のアンケート調 査「良好な友人関係」B 以上 90%以上	・アンケート・SST の活用 ・フェルマータ・タイムの活用 自分の行動や心の振り返り の対話の時間を設ける。 ・特別支援教育個別の手法の 共有 校内委員会（月 1 回）	・月 1 回定期的に校内委員会を実 施、SC や SSW と連携をとり、特別 に支援の必要な児童も含め、児童 も見取りを全校体制で行った。有 効な声かけ、見取り方を共有し、 実践に結びつけた。	・スクールアシスタント、SA 等を 活用し、よい行動を褒 めることで良好な人間 関係を醸成してきてい る。	○

80周年関連行事等に主体的に関わる。	・児童アンケート調査 児童アンケート調査 B以上90%以上	・運動会、展覧会、周年関連集会等特別活動の取り組み	周年に関わる様々な取組を通し、学校の誕生日を祝う気持ちなど愛校心が育ってきた。	・心のレガシーとして学校や地域を愛する心を育んでいきたい。	◎
--------------------	-------------------------------------	---------------------------	---	-------------------------------	---

重点的な取組事項－3 体力の向上と健康・安全					
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
心身ともに健康な児童の育成 運動に取り込む意欲や感情をコントロールし最後までやり遂げる態度の育成 児童の安全意識の向上		・生活調査アンケート「早寝」80%「早起き」90%「朝ご飯」98%	・早寝について、高学年の達成率が低い傾向にあった。	朝ご飯についてはほぼ達成できているが、個別に対応している。	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
落ち着いた生活習慣の確立	・登校、朝の時間のルーティンづくり 「早寝」80%以上「早起き」90%以上「朝ご飯」98%以上	・挨拶、靴揃え、廊下歩行の指導、児童の実践を促す。 ・授業規律、名札の着用、手洗い・うがい等の指導を通し学習に向かうルーティンをつくる。 ・フェルマータ・タイムの活用 学習に向けた午後の落ち着いた生活習慣づくり	・学年はじめの4月より夏休み前までに、梅二の学習・生活をもとに朝の学習に向かうルーティンづくりをした。 ・学校独自のフェルマータ・タイムを活用し、自己の生活の振り返り、午後の集中力に持続、落ち着いた環境を整えた。	・月ごとに書く学級の実態を把握し、よいところを声かけ伸ばしていった。 ・教員が声かけをしなくてもできるような習慣化が課題	○
体力の向上	・体育科の実践、外遊びの励行 ・姿勢・体幹・学習体力を意識した取組	・多様な動きをつくる運動を年間計画に組み込む。 ・業間の活用（児童教員と共に活動・場の工夫） ・姿勢の保持	・OJT 研修会（体育の実技）を実施し、指導力の向上、体力向上に取り組んだ。 ・持久走や短縄・長縄を使った運動を推進した。特に、短縄は講師を招き授業を実施した。縄を使った運動に興味を持たせた。	・体育主任を中心に、体力の向上の取組を行った。暑い時期の外遊び・校庭体育と熱中症対策と体力向上の取組の両立が課題、	△
健康教育と食育の推進	・食育の授業「もりもりウィーク」の実施	・保健指導、保健だより等を活用し、家庭との連携・自己評価による早寝・早起き・朝ご飯の習慣化 ・「食育授業（年2回）」「給食だより（月1回）」「郷土食」「もりもり給食ウィーク（年3回）」等食育の推進	・健康作り、感染症の拡大防止を図ることができた。 ・発育測定時に養護教諭による健康についての講話、栄養士の食育の授業、給食試食会や幼保園の交流給食等も実施。	・校内だけでなく、保護者・地域の連携園へも健康作り、食育を広めることができた。	◎

安全・防災教育の推進	・社会の状況に対応し、想定範囲を拡張した避難訓練の実施（諸機関との連携） ・安全指導の実施	・諸機関との連携、地震、水害、不審者対応訓練等の実施 ・水害時マタイムラインの活用 ・アレルギー対応訓練 ・危険予測、危険回避能力の育成	諸機関と連携した避難訓練を複数回実施した。 ・アレルギー対応訓練を年度当初に実施した。初発のケースについて落ち着いて対応することができた。	・警察署・消防署都の連携により、避難訓練の充実、教員・児童の安全への意識が高まった。	○
------------	--	---	--	--	---

6 まとめ

（１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

【成果】

「梅二小学習スタンダード」「梅二小生活スタンダード」の学習と生活指導の両輪で、学びに向かう朝のルーティーンを作ってきた。学びに向かう児童、学習規律が整ってきていった。１学年 35 人 ２学年 30 人の１クラス、３年生以上は 25 人前後の２クラスの少人数で、あたたかな学習集団の中で取組を行ってきた。また、４月実施の区学力調査を受け、ＳＰ表を作成し分析を行った。学校全体 ２教科で昨年度に引き続き通過率が 80%を超えたが、２学年は国語通過率が 60.7%、５年・６年の算数がおおよそ 70%と課題があった。２年生では日常の授業等を通して、文字を丁寧に書くこと、ノート指導、文字と意味を繋げる、書き表す等、学びの基礎を身につけさせるための指導を行った。結果、２月に実施した区の学力調査問題（自学年）の通過率は国語 94.2%、算数 85.0%、２教科 89.5%となった。昨年度に引き続き学校全体では２教科で 80%を超えるようになってきている。

【課題】

- ・学力向上に関しては、算数では、計算の決まりの活用、割合等個別に補充する事柄はあるが、基礎的な力がついてきている。さらに、学んだことをもとに考えたり、表現したり、交流の質を向上させたりすることが課題である。

- ・AIドリルの活用等ICTの活用、情報モラル

【対策】

- ・低学年で、学びの基礎を身につけさせる。（かな文字の読み書き MIMアセスメントの活用） ノート指導 音読指導
- ・文字を言葉のまとまりとして捉えて書くことになれる。（MIM 視写の活用）
- ・つまずきの解消（１年生から算数習熟度別指導 放課後補充指導 AIドリル等の活用）
- ・家庭との連携（月１回の家庭学習奨励期間 自主学習の奨励）

（２）保護者や地域へのメッセージ

- ・梅島第二小学校は、日常の教育活動を通して「ゆたかな子」「かんがえる子」「つよい子」の３つを教育目標に、学んだことは必要なときに使える児童の育成を目指しています。
- ・昭和１９年６月に梅島小学校から独立開校した梅島第二小学校は、昭和、平成、令和の時代８０年の歴史を歩んできました。令和６年度、創立８０周年を迎えることができました。１１月には足立区、地域・保護者の皆様のお力をお借りして、児童の記念式、記念式典、祝賀会等周年関連行事を執り行うことができました。ありがとうございました。今後、さらに梅島第二小学校が発展していきますようお力添えをお願いいたします。

（３）その他（学校教育活動全般について）

- ・学ぶことが楽しい学校をつくっていきます。各学年２学級を維持できるよう
- ・児童が、「新しいことの挑戦し、失敗からも学ぶこと」「成長できるというマインド」をさらに育てていきます。
- ・特別支援教育、不登校（登校渋り）対策を図っていきます。